

You, Unlimited

龍谷大学大学院
社会学研究科



Graduate School of

Sociology

2027



RYUKOKU
UNIVERSITY

社会学研究科

Graduate school of Sociology

人間、地域を共生と協働で切り拓く研究

社会学研究科は、社会学専攻社会学コース・同専攻ジャーナリズムコースおよび社会福祉学専攻から構成され、各専門の総合的教育を通して、社会の要請に応えられる見識ある研究者・教育者・高度専門職業人の養成を目指しています。

開かれた教育研究機関として、留学生や社会人を含め多様な学生が、それぞれに適した形態の入試によって入学し、共に研究に励んでいます。学生の自由な発想と研究関心を生かし、実績ある教授陣が懇切丁寧な研究指導を行います。また、修士論文および博士論文の執筆過程における発表を通して、研究成果形成をサポートします。

学生一人一人が社会の現状に向き合うことを重視し、社会調査教育や社会福祉実践教育を推進しています。



高度専門職業人の養成

時代と環境の変化に伴って生じる新たな社会問題と向き合い、自ら公共的課題解決に挑んでいく人材の養成を目指しています。

社会人が学びやすいカリキュラムと多様な履修コース

5・6講時(17時以降)を中心に構成した昼夜開講制や土曜日開講など、社会人の方にも学びやすいカリキュラムを整え、セメスター制を導入しています。

国際化の推進と留学生への充実したサポート

多くの留学生が在籍しており、国際化に向けた歩みを着実に進めています。

教育理念・目的

多様な価値が錯綜する現代社会において、社会学と社会福祉学の分野が果たす役割は大きいと考えます。社会学研究科は建学の精神に基づき、専門性と実践性をバランス良く兼ね備えた高度専門職業人・研究者・教育者を養成します。

専攻	修士課程	博士後期課程
社会学専攻	複雑で多様な現代社会の諸問題を分析できる社会学的な学識と能力を有する専門社会調査士や職業ジャーナリストのような高度専門職業人及び研究者を育成することを目的とし、現実社会に対応した研究能力と幅広い実践能力をもつ人材を養成する。	高度で創造的研究を行うことのできる自立した研究者を育成することを目的とし、社会学の研究領域で価値ありと認められる研究成果を生み出す能力を有する人材を養成する。
社会福祉学専攻	現代社会における社会福祉学の専門性と実践性を兼ね備えた高度専門職業人及び研究者を育成することを目的とし、現実の社会福祉問題に直結した研究能力と幅広い実践能力をもつ人材を養成する。	社会福祉学の研究方法を身につけ、創造的で自立した研究者を育成することを目的とし、社会福祉問題の分析における高度の研究能力を有する人材を養成する。

研究科長のメッセージ

学問とは、問いを解けるために学ぶことでしょうか。

社会学研究科は設立されて以来、現代社会が抱える多様な課題を問いにし、真摯に向かい合ってきました。古典的な社会思想や社会学理論への理解から出発し、社会構造の変動に伴って起きた現実的な社会問題を答えようとして、その研究領域は社会福祉制度の構築、地域コミュニティの再生、ジェンダー平等、環境持続可能性などに拡充してきました。さらに、デジタル化と国際化の進展に従って、その関心はメディアと情報社会、移民・難民の社会統合、多文化の共生など多彩になってきました。

ここでは、学生のみなさんは自身の関心に基づき、多角的な視点から社会問題を探求すると同時に、フィールドワークや社会調査を通じて得られたデータを基に、現実社会に即した研究成果を生み出すことに努めています。また、アジア諸国から集ってきた多くの留学生や社会人学生とともに、グローバルとローカルの視点で課題に取り組み、国内外の研究者や実務家を招聘して開催される講演会やワークショップなどを通じて、最新の学術的知見や実践的なスキルを身につけようとしています。卒業生は、学界だけでなく、行政、NPO、企業など、さまざまな分野で活躍しています。

歴史と伝統のある社会学研究科で、社会の「いま」と未来を、みなさんとともに考えていきたいです。



社会学研究科長
李复屏(り ふびん) 教授

実践的で多様なカリキュラム

社会学専攻

●社会学コース ●ジャーナリズムコース

研究を行うには、社会学理論についての理解、外国語文献を読んで理解する語学力、研究・調査法についての知識とスキル、自分の専攻したい分野についての最先端の研究の把握、論文作成の知識とスキルが必要です。修士課程では、これらの基礎的な知識、能力、スキルを身につけることにより、社会学の研究を独力でやり遂げる力を身につけます。

※ 大学院設置基準第14条特例に基づく昼夜間開講講義を実施し、社会人入試による学生の受け入れも行っています。

	1年次	2年次	
修了要件	演習<必修>	8単位	修士論文
	外国語<必修>	4単位	
	基礎科目<選択必修>	2単位	
	選択科目<選択>	16単位	

修士課程

社会福祉学専攻

複雑化している社会福祉分野に柔軟に対応できる人材を育成し、より専門的で高度な教育・研究を目指しています。社会福祉に対する関心や知識を一層深めることができるとともに、福祉現場などで活躍している人の再教育・スキルアップにも役立ちます。また、将来社会福祉の研究者・教育者を目指す人たちの研究の基礎づくりの支援を行っています。

博士後期課程

社会学専攻

博士後期課程では、修士課程で修得した独力で研究をやり遂げる力を研究成果に結びつけていきます。自ら研究課題を設定して、研究・調査に取り組み、成果を学会発表や学術論文として発表することを繰り返して、社会学の研究者として活躍できる力量を身につけていきます。

社会福祉学専攻

博士後期課程では、修士課程での研究や成果を土台に、さらに専門的な研究を展開できるよう、博士号取得に向けての指導と支援を行い、社会福祉学の研究者の養成を目指しています。

社会学研究科 3つのトピックス

Topics

1

充実の研究補助

学会発表や論文作成に充実した補助を行う「大学院研究活動奨励・支援制度」を2024年度に新設。

<学院研究活動奨励・支援制度>

■学会活動支援

- ・発表を伴う国内学会参加：一律 30,000円の補助
- ・発表を伴う国外学会参加：一律100,000円の補助

■論文校正支援

- ・外国語による論文作成(留学生の場合は日本語) 校正：上限50,000円

■論文投稿支援

- ・学会やジャーナルへの論文投稿料：上限50,000円

その他多数。詳しくはQRコードをスキャンするか本学HPをご覧ください。



<充実した給付奨学金制度>

大学院生が研究に専念できるよう、下記の給付奨学金を用意。

- ①成績優秀者給付奨学金
年額：180,000円 4名受給(2025年度実績)
- ②研究活動支援給付奨学金
年額：151,000円 4名受給(2025年度実績)
- ③外国人(留学生)特別奨学生(在学採用型)
年額：200,000円 1名受給(2025年度実績)
- ④外国人(留学生)特別奨学生(予約採用型)
年額：学費全額 2名受給(2025年度実績)

多くの方が返済の必要が無い奨学金を受けて研究を進めています。

Topics

2

留学生への手厚い支援

社会学研究科では多くの留学生が学んでいます。現在、24名の留学生が修士号・博士号の修得を目指して日々努力されています。

留学生ならではの研究テーマも多く、「実習がソーシャルワーカーの支援の質に与える影響ー中国のX高齢者福祉施設におけるインタビュー調査からー」「中国における仏教高齢者福祉施設の現状から見たEOLケア」など学会でも発表しています。

また、留学生が日本語で論文を作成するに必要なノウハウを学ぶ「学術日本語ライティング研究」科目を開設しているのもユニークなポイントです。

留学生のみを対象とした奨学金についても、Topics1で紹介のとおり多数用意しています。

Topics

3

他大学・機関との包括協定と「認定社会福祉士」の認定研修

他大学・市町村や他機関との包括連携協定締結を推進しています。2024年度は新たに地域医療連携推進法人湖南メディカル・コンソーシアムと包括連携協定を締結しました。包括協定先の社会人に対して修士課程推薦入試制度を導入し、社会人の方が学びやすい環境を整えています。

また、修士課程社会福祉学専攻では開設科目の「社会福祉学専攻演習II」が、社会福祉士の実践力を認定する「認定社会福祉士」の認定研修単位として認証を受けました。2026年度以降は読み替えが可能です。

社会学専攻



「現場主義」にもとづき調査を主体に多角的な理論的検討をおこなうカリキュラムが特徴です。社会学の研究を深めたい人だけでなく、専門社会調査士や職業ジャーナリストを目指す人にぴったりです。

専任教員紹介

2026年度 専任教員の 専門分野・主な研究テーマ

「M」は修士課程科目担当者、「D」は博士後期課程科目の担当者です

ともに学びましょう。

工藤 保則
【博士(社会学)】

M D



文化社会学/
子ども社会学

研究分野は精神分析、
社会学、環境思想です。

村澤 真保呂
【修士(人間・環境学)】

M D



社会思想史/精神分析

都市で発達した伝統的な
祭りを研究しています。

吉田 竜司
【修士(文学)】

M



集合行動論

途上国の中国はいかに発展して
きたかを主に研究しております。

李 复屏
【博士(経済学)】

M



地域発展学

現在のテーマは農業と
ジェンダー、家事労働

渡辺 めぐみ
【博士(社会科学)】

M



ジェンダー・スタディーズ/
家族社会学

人間ではない生き物たちやその
死体たちの社会学を考えています。

渡邊 悟史
【博士(政策・メディア)】

M



地域社会学/
人間動物関係論

報道現場の課題を
いっしょに考えよう!

畑仲 哲雄
【博士(社会情報学)】

M D



マスメディア/
ジャーナリズム

中世のフランス文学を
専門にしています。

嶋崎 陽一
【修士(文学)】

M D



フランス中世文学/
アーサー王文学

ドイツ語圏の音楽文化に
ついて研究しています。

高岡 智子
【博士(学術)】

M D



音楽学/ドイツ文化史

移住や宗教をテーマに
調査を行っています。

椿原 敦子
【博士(人間科学)】

M D



文化人類学

環境問題、地域活性化
の研究をしています。

閻 美芳
【博士(人間科学)】

M



有機農業/獣害問題/
農村都市化

同時代を生きる者として
ともに学びましょう。

清家 竜介
【博士(学術)】

M



社会哲学/理論社会学

他にはない社会学の
醍醐味を堪能しよう!

津島 昌弘
【M.A.】

M D



犯罪社会学/社会統計学

龍谷大学は戦前アジアのメ
ディア史関連の史料を多く所蔵して
います。是非、ご利用ください。

李 相哲
【博士(新聞学)】

M D



ジャーナリズム史/
東アジアの新聞研究

地域の環境問題を、
一緒に研究しましょう。

脇田 健一
【修士(社会学)】

M D



環境社会学/地域社会学

大規模計量データを用いて
教育の機会と結果の格差を
研究中

松岡 亮二
【Ph.D. in Education】

M



教育社会学/教育格差・不平等
(Inequality in education)

社会の諸課題について、多角的観点から
ともに深く考えていければと思っています。

舟橋 健太
【博士(地域研究)】

M



文化人類学/
南アジア地域研究

他学部教員・特別任用教員・ 外部講師

鵜塚 健 政治報道研究/調査報道・記事制作実習

島村 健司 アカデミック・ライティング

藤田 悟 政治コミュニケーション研究/アジア報道研究

在学生からのメッセージ



劉 咏琪(リュウ・エイキ)さん

修士課程 社会学専攻

私は龍谷大学で学部と大学院に在籍しました。学部時代の学びを通して社会現象に関心を持ち、より深く研究したいと考えました。また、龍谷大学の先生方はとても親切で、ここでそのまま大学院に進学したいと思うと同時に、龍谷大学のキャンパスでさらに学生としての時間を過ごしたいとも思いました。

大学院進学後は家族社会学に関する研究を行いました。当初は研究テーマがなかなか決まりませんでした。その際、指導教員の渡辺先生が非常に根気強く文献を集めてくださり、先行研究の収集方法を丁寧に指導してくださったことで、研究を前に進めることができました。最終的に、ジェンダーと親子関係の両方に関心があったため、「中国における女性の断親現象」を研究テーマとしました。

また、龍谷大学は努力すれば報われる大学だと思います。学部時代には優秀学生奨学金を受給し、大学院でも努力を重ねて奨学金を取得することができ、研究面・生活面の双方で大きな支えとなりました。

さらに、教員だけでなく、教務課の職員の方々も常に学生の立場に立って対応してくださり、安心して学生生活を送ることができました。中国出身の留学生に配慮して、懇親会の際に中華料理のお店で一緒に食しました。

こうした環境の中で学べた六年間は、私にとって大きな成長につながった時間です。多くの方に龍谷大学の魅力を知っていただき、ぜひ受験していただければと思います。

修了生からのメッセージ



神田 竜之介さん

修士課程 社会学専攻

もともと本学の経済学に所属していたのですが、自主的に学びを深めていくうちに社会学や人文学の領域に関心を持つようになり、本研究科への進学を決めました。大学院ゼミでは、同学年の仲間や学部生たちと輪読をしたり議論を交わしたりと、充実した日々を過ごすことができました。また学部時代とは異なり合同研究室では個人用のデスクを使用することができ、十分に集中できる環境で研究に励むことができました。

私の研究テーマは、芸術と社会の関係です。芸術が社会のなかでどんな役割を果たしてきたのかを、近代から現代までの美術史と社会思想の議論を手がかりに考えています。芸術は高尚な文化とみなされ、身近な日常生活とは関係ないものだと思われがちです。とはいえ芸術は、その時々で社会が見落としてきた違和感や怒りを表現として形にし、社会の前提や価値の基準を問い直す材料をつくってきました。私はそのような動きに注目し、芸術がどのように公共の議論や制度の変革に関わりうるのかに関心があります。

社会学の大学院は、研究者を養成する場であると同時に、自分が生きてきた経験を問いに変え、他者と共有できる言葉へ鍛え直すことで、自分の生き方の軸をつくり直す場でもあると考えています。皆さんも仲間と学びながら、自分の関心を研究として深めてみませんか。

修士論文題目例

- 「文化交流型」国際結婚における共働き夫婦の葛藤 中国人女性へのインタビューを通じて
- ロシア・ウクライナ戦争の報道に関する研究 『読売新聞』と『朝日新聞』の報道を事例に
- 報道における「当事者性」はいかに継承されるのか 阪神・淡路大震災報道を通して『神戸新聞』の30年を分析する

社会福祉学専攻



社会福祉の高度専門職業人及び、研究者・教育者の育成を目的とし、人間力豊かな人材を養成します。

専任教員紹介

2026年度 専任教員の
専門分野・主な研究テーマ

「M」は修士課程科目担当者、「D」は博士後期課程科目の担当者です

言語形式の意味と
機能について考察する。



児童福祉のケアの専門
性を研究しています。



地域福祉のあり方を
研究しましょう。



精神的な悩みを抱える
方の支援を研究中



高齢者福祉の研究を
しています。



主な研究テーマは知的障害
のある人のQuality of lifeです。



人権保障確立の観点から
社会保障を研究しています。



障害者福祉の研究を
しています。



国際的視野を
持ちましょう!



多死社会といわれる中、喪失の
支援について研究しましょう。



世界を変えられる人にな
ることをめざします!



他学部教員・特別任用教員・
外部講師

長崎 陽子 仏教社会福祉論研究
中根 真 社会福祉原論研究

主な学会発表・研究発表

日本仏教社会福祉学会第59回大会

・中国における仏教高齢者福祉施設の現状から見たEOLケア

日本社会福祉学会第73回秋季大会

・実習がソーシャルワーカーの支援の質に与える影響
ー中国のX高齢者福祉施設におけるインタビュー調査からー
・女性の貧困と生活保護制度の運用の問題点
ージェンダー視点によるセーフティネットの再構築

在学生からのメッセージ



矢田 直子さん

修士課程 社会福祉学専攻

市役所職員として福祉行政におよそ40年間携わり、様々な経験を積んでまいりました。そのなかで数多くの心に残る言葉を戴きましたが、中でも、高齢者の方々から戴いた言葉は、折に触れ私の頭に浮かんできます。

長年の実務を通して得たことは、「社会福祉学」という学問の中でどのように体系的に整理できるのだろうか。『福祉』の本質的な意味とは何なのか。そうした問いを追求したいという思いを抱き、「今ならまだ新しいことにチャレンジできるかも」と考え、大学院に進学することにしました。

大学院では、高齢者福祉、特に、介護が必要な状態になってもなお、希望をもって日常生活を過ごすためには何が必要かについて研究しています。要介護高齢者の方々にも、誰かのために貢献できる役割があるのではないかと、という視点から探求を進めています。

少人数の授業で、先生方の豊富な専門知識や的確な指導に触れることは、新たな気づきを得られる貴重な経験です。授業は主に午後から開講されるため、空いている時間は図書館で過ごすことが多いのですが、隣で勉強している若い学生さんたちからも良い刺激を受けています。

「学びたい」と感じた、その初心を大切に、長年の経験を理論と結びつけながら、今後も真摯に研究に取り組んでいきたいと考えています。

修了生からのメッセージ



陳 永諾(チン・エイダク)さん

修士課程 社会福祉学専攻

社会学研究科社会福祉学専攻(修士課程)で、児童館をめぐる子ども支援の現場に関心をもち、大学生ボランティアの活動が生み出す支援のかたちを研究しています。こうした関心を形にできたのは、龍谷大学での二年間の学びがあってこそです。

私にとって入学はとても幸運でした。学びの楽しさを実感できる毎日でした。入学時は関心が散らばり、何から考えればよいか迷うこともありましたが、先生方はいつも私の言葉に耳を傾け、方向性が見えるまで丁寧に伴走してくださいました。原稿の細部まで何度も見ていただき、問いの立て方や文章の組み立て方を一つひとつ身につけられたことで、修士論文を自分の力でまとめ切ることができました。基礎理論から実践までを行き来できる学びの中で、視野が広がり、研究の軸が定まりました。相談すれば必ず返ってくるフィードバックの密度が、研究を前に進めてくれます。授業やゼミでは、意見の違いを尊重しながら議論する文化があり、研究の厳しさと温かさの両方を実感しました。学びだけでなく、日々の生活も含めて充実していたのは、この環境があったからです。

受験生のみなさんへ。最初から完成されたテーマでなくて大丈夫です。小さな疑問を大切に、対話を重ねて問いへ育ててください。龍谷大学には、その挑戦を支えてくれる先生方と学びの場があります。

修士論文題目例

- 京都市の大学生ボランティア活動が児童館運営に与える影響の研究
—U児童館を事例として—
- 在日中国籍の働く母親の子育てにおける葛藤に対する研究

博士号(社会福祉学)取得者からのメッセージ

博士学位授与論文題目

- 援助希求に乏しい児童虐待家庭の養育者と市町村相談援助担当者との関係形成

～博士学位取得を目指す方々へ～

私は、博士論文を執筆し合格をいただくまでに11年を要しました。導き励ましていただいた皆様には、感謝しかありません。そして、これから博士を目指す方々には、「千里の道も一歩から。あきらめないで!」とお伝えしたいと思います。



滋賀県立大学人間看護学部
准教授

馬場 文さん

龍谷大学のブランドストーリー

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、
将来の予測が難しい時代となっています。
いま必要なことは、「学び」を深めること。
「つながり」に目覚めること。
龍谷大学は「まごころある市民」を育てていきます。

自らを見つめ直し、他者への思いやりを発動する。
自分だけでなく他の誰かの安らぎのために行動する。
それが、私たちが大切にしている
「自省利他」であり、「まごころ」です。
その心があれば、激しい変化の中でも本質を見極め、
変革への一歩を踏み出すことができるはず。

探究心が沸き上がる喜びを原動力に、
より良い社会を構築するために。
新しい価値を創造するために。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、
地球規模で広がる課題に立ち向かいます。
1639年の創立以来、貫いてきた進取の精神、
そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、
誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。
その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。
龍谷大学が動く。未来が輝く。

You, Unlimited

龍谷大学大学院 社会学研究科

新たな知と価値を創造するために、
「心・知・行動」の拠点として、地域や世界の課題に対峙し、
問い続ける。それが、龍谷大学の研究のあり方です。

これまでの社会のあり方や私たちの行動を省み、
先端的な研究や学際的連携による知の集約のもと、
世界の人々と協力して困難な課題に立ち向かう。
その姿勢と行動が、未来の可能性を切り拓いていきます。

京都深草キャンパス 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
Tel 075-585-7672 shakai@ad.ryukoku.ac.jp

※2027年4月、「深草キャンパス」より名称変更。



社会学研究科のHPはコチラから

<https://www.soc.ryukoku.ac.jp/daigakuin>

■ 入試について

「2027年度 入学試験要項」をご確認ください。
また、入試結果については入試情報サイトに掲載しております。
<https://www.ryukoku.ac.jp/admission/nyushi/>

■ 学費・諸会費について

2027年度学費・諸会費については、「2027年度 入学試験要項」をご参照ください。

社会学研究科では年に数回、入試説明会を開催しております。
詳しい日程については社会学部教務課へお問い合わせください。

※掲載の学年、所属は取材時のものです。

2026年5月発行

